

## アコヤガイモニタリング調査結果概要（平成30年5月24日:調査日）

◎2018年5月31日

### 1 調査結果の概要

・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン量は、全ての海域で3%を上回っており、概ね

良好と判断された。

・貝柱の赤変個体は認められず、赤変度合を示すa値は、前年と同程度であった。

### 2 調査方法

5月から11月まで月1回（第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

### 3 測定項目および判断指標

・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

・a値 : 閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。

赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。

### 4 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	9.9(6.6)	-1.0(-1.2)	赤変個体数0個
南部	日中交雑貝※2	11.1(7.8)	-1.4(-0.9)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	12.4(7.4)	-0.8(-0.7)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	11.0(11.2)	-0.9(-1.1)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	6.1(6.1)	-0.3(-0.5)	赤変個体数0個

\* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

\* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

( )内は昨年同月の数値

# アコヤガイモニタリング調査結果概要（平成30年6月21日:調査日）

◎2018年6月26日

## 1 調査結果の概要

・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン量は、全ての海域で3%を上回っており、概ね

良好と判断された。

・貝柱の赤変個体は認められず、赤変度合を示すa値は、前年と同程度であった。

・今後、各漁場において水温上昇等の海況の変化によって、貝の活力が落ちてくることも考えられますので、貝の管理には注意してください。

## 2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	9.8(8.4)	-1.0(-0.7)	赤変個体数0個
南部	日中交雑貝※2	10.2(8.4)	-1.1(-0.9)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	15.4(10.8)	-0.9(-0.8)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	14.1(12.1)	-0.7(-1.0)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	8.5(3.9)	-0.8(-0.6)	赤変個体数0個

\* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

\* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

( ) 内は昨年同月の数値

## 3 調査方法

5月から11月まで月1回（第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

## 4 測定項目および判断指標

・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

・a 値 : 閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。

赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。

## アコヤガイモニタリング調査結果概要（平成30年7月19日:調査日）

◎2018年7月23日

### 1 調査結果の概要

・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン量は、全ての海域で3%を上回っており、概ね

良好と判断された。

・貝柱の赤変個体は認められず、赤変度合を示すa値は、前年と同程度であった。

・今後、水温の上昇に伴い、アコヤガイ赤変病が進行するとともに、赤潮の影響で貝の活力が落ちていることが考えられますので、貝の管理には十分注意してください。

### 2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	5.4(7.4)	-0.9(0.1)	赤変個体数0個
南部	日中交雑貝※2	7.3(8.6)	-0.3(0.0)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	4.9(10.2)	-0.8(-0.7)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	7.4(11.2)	-0.9(-1.0)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	5.0(2.2)	-0.6(-0.7)	赤変個体数0個

\* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

\* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

( ) 内は昨年同月の数値

### 3 調査方法

5月から11月まで月1回（第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

### 4 測定項目および判断指標

・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

・a 値 : 閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。

赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。

# アコヤガイモニタリング調査結果概要（平成30年8月23日:調査日）

◎2018年8月27日

## 1 調査結果の概要

・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン量は、全ての海域で3%を上回っており、概ね

良好と判断された。

・貝柱の赤変個体は南部海域において1個体確認された。赤変度合を示すa値は、前年と比較して高い傾向であった。

・今後、高水温が続くことで、赤変病が進行するとともに貝の活力が落ちてくることと考えられますので、貝の管理には十分注意してください。

## 2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	3.3(5.4)	0.8(0.9)	赤変個体数1個
南部	日中交雑貝※2	4.5(7.5)	0.5(-0.3)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	3.8(9.6)	-0.6(-0.9)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	4.7(6.8)	-0.2(-0.7)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	4.5(2.4)	0.0(-1.0)	赤変個体数0個

\* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

\* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

( ) 内は昨年同月の数値

## 3 調査方法

5月から11月まで月1回（第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

## 4 測定項目および判断指標

・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

- ・ a 値 : 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。  
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-

## アコヤガイモニタリング調査結果概要（平成30年9月13日:調査日）

◎2018年9月25日

### 1 調査結果の概要

- ・貝柱の赤変個体は南部海域において2個体確認された。赤変度合を示すa値は、前年と比較して高い傾向であった。
- ・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン量は、南部以外の海域では3%を上回っていた。しかし、昨年と比べ、グリコーゲン量が低く、栄養状態が落ちているため、貝掃除等、貝の管理には十分注意してください。

### 2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	2.6(4.2)	0.9(-0.1)	赤変個体数2個
南部	日中交雑貝※2	3.3(5.2)	0.0(-0.3)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	4.7(6.6)	-0.6(0.0)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	4.0(5.0)	0.2(-0.5)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	5.7(2.6)	-0.2(-0.9)	赤変個体数0個
平均		4.1(4.7)	0.1(-0.4)	

\* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

\* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

( ) 内は昨年同月の数値

### 3 調査方法

5月から11月まで月1回（第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

### 4 測定項目および判断指標

- ・グリコーゲン：アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

- ・ a 値 : 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。  
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-

# アコヤガイモニタリング調査結果概要（平成30年10月11日:調査日）

◎2018年10月15日

## 1 調査結果の概要

- ・貝柱の赤変個体は南部海域において3個体確認された。赤変度合を示すa値は、前年と比較して高い傾向であった。
- ・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン量は、中部以外の海域では3%を上回っていた。しかし、昨年と比べ、グリコーゲン量が低く、栄養状態が落ちているため、貝掃除等、貝の管理には十分注意してください。

## 2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	3.7(6.0)	1.3(0.3)	赤変個体数3個
南部	日中交雑貝※2	4.0(6.4)	0.1(-0.4)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	2.3(5.1)	0.6(0.4)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	2.9(4.9)	0.5(-0.4)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	4.8(3.6)	0.2(-0.8)	赤変個体数0個
平均		3.5(5.2)	0.5(-0.2)	

\* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

\* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

( ) 内は昨年同月の数値

## 3 調査方法

5月から11月まで月1回（第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

## 4 測定項目および判断指標

- ・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

- ・ a 値 : 閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。  
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-

## アコヤガイモニタリング調査結果概要（平成30年11月8日:調査日）

◎2018年11月12日

### 1 調査結果の概要

- ・貝柱の赤変個体は中部海域において2個体確認された。赤変度合を示すa値は、前年と比較して高い傾向であった。
- ・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン量は、全ての海域で3%を上回っていた。しかし、昨年と比べ、グリコーゲン量が低く、栄養状態が落ちているため、抑制などの作業をする際は十分注意してください。

### 2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	4.2(6.9)	-0.1(0.1)	赤変個体数0個
南部	日中交雑貝※2	4.7(6.1)	-0.1(-0.4)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	3.1(4.1)	-0.2(0.1)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	3.6(4.1)	0.8(-0.5)	赤変個体数2個
北部	日中交雑貝	7.6(3.1)	-0.5(-0.7)	赤変個体数0個
平均		4.6(4.9)	0.0(-0.3)	

\* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

\* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

( ) 内は昨年同月の数値

### 3 調査方法

5月から11月まで月1回（第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

### 4 測定項目および判断指標

- ・グリコーゲン：アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

- ・ a 値 : 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。  
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-